

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの学習ニーズに応じた多様で柔軟な教育課程編成及び確かな学力の育成を図るため組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②基礎・基本の定着に向けて学び直しや少人数授業を積極的に取り入れるとともに、様々な学習支援の方法について研究を進め、生徒一人ひとりに向き合う教育実践に取り組む。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な活動を促進する。</p>	<p>①確かな学力育成を図るため、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学び直しを学校全体の取組みとして位置付けるとともに、生徒にとって有意義な学び直しについて研究する。</p> <p>③放課後や土曜日を活用した補習や講習の実施について研究する。</p>	<p>①年間行事に教科会を位置づけ、基礎・基本の定着に向けた授業内容の精選や教材の共有化、テストの共通化について検討を進める。</p> <p>②外部講師による、学び直しや確かな学力育成に関する教員研修会等を実施する。</p> <p>③放課後等の補習・講習に関して生徒アンケート及び職員アンケートを行い、生徒のニーズを把握するとともに、教員の意見やアイデアをまとめていく。</p>	<p>①教科会の検討内容、回数が充実した。</p> <p>②組織的な学び直しのスタイルを構築することができたか。</p> <p>③放課後等の補習・講習が実施できたか。また、生徒の参加数は十分であったか。</p>	<p>①年間計画に従い教科会を開催し、研究授業に向けた検討をとおして基礎・基本の定着に向けた授業内容について研究を進めている。また、教材や指導法の共有化、授業改善等を図るため授業を映像記録として蓄積できるよう「永谷授業ライブラリー」設置要項を定めた。</p> <p>②校内のICT機器を一元管理するとともに、グループワークを行うための機材(まなボード、スクールタイマー)を新たに整備して、授業で活用しやすい体制を整えた。また、授業におけるICT機器利用について、教員アンケートを実施した。今後、集計・分析を行っていく。</p> <p>③11月21日に外部講師を招聘し、本校生徒の確かな学力育成に向けた効果的な指導法に関する公開研究授業・教員研修会を実施した。</p> <p>④放課後等の補習・講習に関して生徒アンケート、職員アンケートを実施した。生徒アンケートからは生徒のニーズが低いという結果が表れ、職員アンケートからは授業改善を優先すべきという意見や放課後の生徒の活動に対する影響を懸念する意見等が出されたため、次年度の公開講については一旦見送ることとした。</p>	<p>①10月から「永谷授業ライブラリー」の運用を開始した。</p> <p>②ICT機器を活用した効果的な授業が行われている一方で、生徒が黒板をひたすら写すだけの授業が行われているといった課題がある。</p> <p>③11月21日の公開研究授業・教員研修会の成果をその後の授業に活かす。研修成果を踏まえ、黒板を使用せずにHR伝達事項を伝達できるよう、全ての教室にホワイトボードを設置することとした。</p> <p>④放課後等の補習・講習を実施するにあたり、既に予定されている行事や会議等との調整を行う必要がある。</p> <p>⑤次年度も生徒及び職員にアンケートを実施するなどして、引き続き検討を行っていく。</p>	<p>①授業改善のために授業をビデオ撮影する場合は、教員を撮影するだけでなく、前方から生徒の反応を撮影すると有効である。また、ICT機器を導入した場合は、導入の効果を検証する必要がある。</p> <p>②各科目の観点別の伸びをチェックし、検証するとよい。また、「活動あって学びなし」では意味がない。「永谷スタイル」を打ち出せるとよい。</p> <p>③ペア学習を取り入れることが、かえって深い学びを阻害することもある。「アクティブ・ラーニング」に惑わされず、ねらいを明確に定めることが必要である。</p> <p>④チーム・ティーチングや少人数指導、学習活動サポート員の活用を計画的に行うことが大切である。</p>	<p>①「永谷授業ライブラリー」設置要項を定めて運用するとともに、「永谷アカデミア」実施要項に土曜学習会を位置付けて取組を開始した。</p> <p>②ICT機器導入の効果の検証、黒板を写すだけではなく学習意欲を高め、「深い学び」を実現するための授業改善の具体的な方策について一層研究していく必要がある。</p> <p>③夏期講習については、事前説明会によって無断欠席をなくすとともに参加者数を増やす工夫が必要である。また、放課後の補習・講習についての課題については、来年度も継続して検討していく必要がある。</p>	<p>①公開研究授業や校内研究授業の映像記録を蓄積し、有効な活用方法を研究していく。</p> <p>②ICT利活用による授業改善が進むよう情報共有を行う。</p> <p>③学習意欲の向上と「深い学び」の確立に向けた「永谷スタイル」について研究していく。</p> <p>④夏期及び放課後の補習・講習について、引き続き効果的な実施方法を検討していく。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①生徒理解に基づく「温かくかつ厳しい毅然とした生活支援」を目指し、教育相談等個に応じた支援体制の充実を図る。</p> <p>②部活動の活性化をとおして、自主自律の精神や責任感、連帯感を涵養する。</p>	<p>①日常生活の指導の充実(服装・頭髪指導、遅刻指導、授業規律指導、登下校指導)を通じて社会規範の意義と実行力を高める。</p> <p>②日常生活において課題を抱えている生徒を支援する教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>①服装・頭髪指導、授業規律指導において、段階的指導を通じ、生徒自らが主体的にルールを守る力を獲得できるよう、全職員が共通して取り組む。</p> <p>②登下校指導、遅刻指導における課題を家庭と共有し、連携を強化する。また、年間計画に位置づけたメール便の発送により、学校の指導方針の理解・協力を図る。</p> <p>③教育相談体制の充実のため、生徒情報連絡会議を開催する。また、全職員が個々の生徒のニーズを把握し、スクールカウンセラー</p>	<p>①段階的指導の定着により、生徒の規範意識を高め、社会規範の理解を進めることができたか。</p> <p>②登下校指導、遅刻指導を通じて、遅刻者数の減少や登下校時のマナーの向上がみられたか。また、落ち着いた授業環境が確保できたか。</p> <p>③メール便の内容は工夫できたか。</p> <p>④全職員での情報共有と、支援を必要とする生徒の把握を行い、効果的な支援ができた</p>	<p>①段階的指導の円滑な導入に向け、学年会や生徒情報連絡会議を通じて全職員が共通して取り組む体制を構築した。また、服装・頭髪指導、授業規律を生徒自らが主体的にルールを守ることができるよう、学習活動サポート員の活用や巡回指導の効果的あり方について検討した。</p> <p>②4月20日メール便により、生活指導に関する指導方針や今年度から新たに導入した授業遅刻の取扱いについて、全家庭に周知した。また、3回実施した学校説明会においても同様に周知し、入学前から本校の方針に理解・協力が得られるよう工夫した。</p> <p>③5月10日に生徒情報連絡会議を開催した。また、通常のSCの活用に加え、9月1日に発達障害のある生徒への効果的な指導を理解するためのワークショップを開催した。さらに、家庭と学校では解決が困難な課題に対応するためSSW</p>	<p>①日常的な指導を通じた予防・再発防止を目指した段階的指導が学年を中心に定着しつつあり、頭髪指導においては一定の成果を上げることができた。一方、授業規律や登下校時の服装や環境美化に対する意識や態度など生徒の規範意識が高まっていないため、引き続き指導を強化していく。</p> <p>②生活指導方針の周知を通じて家庭との連携を進めているが、連絡が取れない家庭が多く、生徒の生活改善に向けた協力関係を構築することが難しい。</p> <p>③SCを講師としたミニワークショップや地域の大学と連携した生徒理解に関す</p>	<p>①年度当初の4～6月は新入生が入ってくることもあり、自治会では苦情が多くなる。教員が巡回している様子が見えると住民としては安心できる。</p> <p>②教員の服装や来客を迎える時の教員の意識が、生徒の指導に影響すると思う。自分も社会人経験を積んで始めて気づいたことである。ぜひ、教員の意識改革も進めてもらいたい。</p> <p>③服装指導の効果を高めるには家庭の理解・協力が不可欠である。今年度に強化した服装指導については、一定の効果が表れている。</p> <p>④深夜に及ぶスマートフォン利用をやめさせること等に</p>	<p>①授業規律の徹底に向けた段階的指導の効果的な運用について検討するとともに、教員の共通理解を深めていくことが課題である。また、新たに導入した授業遅刻の取扱いについて、様々な場面で生徒・保護者に周知し、遅刻の取扱いだけでなく、遅刻をなくすという本来の目的を達成することが必要である。</p> <p>②生徒の発達の特性に応じた支援に関する理解と関係機関との連携を深めていく</p>	<p>①生徒の問題行動への対応だけでなく、予防的な登下校指導等について、年間を通じた計画的な指導について検討する。また、メール便等を活用し、学校の指導方針に関する生徒・保護者の理解が深まるよう工夫する。</p> <p>②SCをはじめ、関係機関との連携により、生徒一人ひとりの理解と効果的な指導法について工夫する。</p> <p>③新入生に対する</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				(SC)や外部相談機関を活用した支援を行う。	か。	を活用した。1月11日には地域の大学との連携し精神科医を講師とした研修会を実施した。 ①文化祭の企画として、県警本部と連携して「防犯教育・交通安全」啓発事業を実施した。	る研修会を引き続き実施し、職員の生徒理解を深めていく。また、今後は学年・学級における日常的な面談指導の機会を充実させ、本校の生徒指導の方針への協力関係をさらに強化していく。	については、家庭を巻き込んで指導する必要がある。 ①「登校しぶり」を不登校に繋げないようにする指導の必要性等、小学校とも課題が共通している。 ①発達障害への対応等、指定が終了した後も繋がる取組を行ってほしい。 ②部活動の活性化は学校の勢いである。また、生徒の目を学校に向けさせる最も有効な手立てである。ぜひ、活性化に取り組んでもらいたい。	ことが課題である。特に、家庭との連携、小中学校との連携によるノウハウの蓄積を行っていく必要がある。	指導の効果を高めるため、中学校との連携を進める。また、新年度当初の指導体制について工夫改善を図る。
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが自らのキャリア発達を意識し、「将来の生活の充実」「自分らしい生き方」を実現するために必要な能力や態度の育成を目指し、進路指導の充実を図る。	○総合的な学習の時間において、適切な勤労観や職業感の育成を目指したシチズンシップ教育をとおして、キャリア教育に係る学習内容を充実させる。 ○年間計画によるキャリア教育と進路指導を行う。	○「学ぶことと働くこと」「自分がしたいこと・できること」「社会が求めること」など生き方に係る具体例を示し、シチズンシップ教育の充実を図る。 ○インターンシップの参加生徒を増やすために、説明会や広報活動を充実させる。 ○年間計画によるキャリア教育及び進路指導を行うとともに、戦略的な計画のもと、生徒一人ひとりの進路実現を図る。	○キャリア学習において、生徒一人ひとりの満足度を高めることができたか。 ○生徒一人ひとりが目標とした進路実現ができたか。 ○進路未定者が前年度より減少したか。	○キャリア教育及びシチズンシップ教育を一体化させた年間計画を作成し、意図的・計画的に実施し、生徒の意識の高まりが見られた。 ○インターンシップなどの参加者(10名)及び「仕事のまなび場」への参加者(13名)は昨年度とあまり変わらないが、「仕事のまなび場」への参加者を新たに開拓できた。 ○年間計画に沿ってキャリア教育及び進路指導を実施している。日常の教育活動をキャリア教育の視点から捉え、意識化・自覚化して実施するよう取り組んだところ、2月5日に実施した専門学校進学相談会に43名の生徒が自主的に参加するといった成果を得られた。	○生徒の進路意識を高めるため、周知や実施の方法を工夫し、生徒が意欲を持って参加しやすい体制をつくる必要がある。 ○生徒がより主体的に責任感を持って活動できるように事前指導を徹底し、支援を続ける。 ○日常の教育実践をキャリア教育実践プログラムに明確に位置づけ、外部機関と連携し、キャリア教育の体系化を図る。	○保護者の大学体験の申し込みが増えている。要請があれば応じることができるので、積極的に活用してもらいたい。 ○就職は「売り手市場」の状態が続いており、専門学校や高等学校の卒業生も確保しようとする企業が多い。一方で、学生や保護者の意識が低く、社会人として相応しい意識が醸成されていないと思われる言動も見受けられる。	○外部講師を招聘して進路説明会を行ったが、進路決定に対する危機感や自覚を高める指導が必要である。 ○インターンシップや「仕事のまなび場」、高大連携による大学体験プログラム等の周知方法を工夫し、参加者を増やしていく。	○外部講師を招聘して行う説明会・講演会等について、事前指導を徹底していく。 ○インターンシップや「仕事のまなび場」、高大連携による大学体験プログラム等の周知方法を工夫し、参加者を増やしていく。
4	地域等との協働	①地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。 ②ボランティア活動を充実させ、社会性や思いやりの心を育み自己肯定感を高める。	①②地域の清掃活動等ボランティア活動への参加を勧め、自らが地域の一員であることを再確認する。	①②地域の清掃活動等ボランティア活動計画を周知し、自ら興味を持ち、参加する生徒を増やす。	①②地域の清掃活動等ボランティア活動への参加人数(割合)が前年度より増えたか。	①②地域との連携により、平戸永谷川春秋のクリーンアップに延べ48名、港南ガーデン一斉清掃(春秋)に延べ57名の生徒が参加した。また、本校独自の校外清掃(第1回～第5回)に延べ1106名の生徒が参加した。 ①②夏休みに地域の芹が谷小学校の「学習相談ボランティア」(児童に勉強を教えたり、プリントの採点を行う)に9名の生徒が参加した。	①②人数的には昨年度とほぼ同数であるが、2年生の参加数が他学年の半数となっており、今後も生徒への周知を行っていく。 ①②自己肯定感を育む意味で、とても良い体験となっており、より多くの生徒が参加するよう働きかけを続けたい。	①PTAとして、「さくらまつり」ですいとん販売を行ったり、地域清掃に参加したりしている。参加者が増えているように思う。 ②平戸永谷川水辺愛護会としては、各イベントに高校生が参加してくれることは大きな力になっており、大変ありがたい。	①②地域や小学校との連携による清掃活動等ボランティア活動の場は定着した。 ①②参加した生徒がより大きな自己肯定感を持つことができるよう工夫していくことが課題である。	①②地域や中学校等への広報を充実し、生徒の自己肯定感を高めることができるよう工夫する。
5	学校管理 学校運営	「生徒が行きたい学校」「保護者に信頼される学校」を目指し、教職員一人ひとりが積極的に課題改善に取り組む「教職員が生き生きとしている学校」づくりを進める。	○清掃や整理整頓など環境美化を進める。 ○グループが主体となった事故防止会議を年10回以上開催する。	○日常の清掃活動のために用具の点検や充実を図り、校舎内をきれいに保つ。 ○職員会議の冒頭に、グループが主体となった事故防止会議を設定する。	○校舎内、特に廊下や階段をきれいに保つことができたか。 ○グループ主体の事故防止会議を10回以上行うことができたか。	○職員一人ひとりが校内美化の徹底を自己目標に掲げ、生徒自身が主体的にできる清掃活動に取り組んでいる。 ○不祥事ゼロプログラムの年間計画にグループによる事故防止会議を位置づけ、延べ6回実施した。また、8月に外部講師を招聘しての事故防止研修会を、管理運営グループが主体的にテーマを設定し実施した。	○職員の内美化への取組を生徒自身の清掃活動につなげる必要がある。さらに、ゴミの減量化、ポイ捨て禁止を徹底することで校内美化の実現につながる。 ○事故防止会議を様々な角度から開催することで事故防止の意識を常に高める必要がある。	(特になし)	○生徒一人ひとり意識向上や活動を引き出す工夫をしていくことが課題である。 ○グループ主体の事故防止会議を活性化していくことが課題である。	○生徒自身の美化活動・清掃活動が活性化する工夫をする。 ○不祥事ゼロプログラムの年間計画を見直し、効果的な時期にグループ主体の事故防止会議を設定する。